月刊関複

2015 December
No.9
12

滝谷登攀（写真提供：井 寛明氏　株式会社アイワ）

- 巻頭言⑨　後藤理事
- 平成 27 年度第 7 回理事会
- 企業訪問⑨　アルボックス
- PP 制度取得企業紹介　メディアテック
- ［特別企画］次世代を担うプロダクションプリンター

関東複写センター協同組合

関複のホームページが変わりました!

- 関複ニュースをブログ形式にして、より簡単に更新とアクセスができるようになりました。
- トップページにプライバシーポジションの案内バナーをつくりました。
- 会員企業名簿も更新されて、各社のホームページにもアクセスできるようになりました。

私達は、人との出逢いを大切にしたい
その出逢いを永遠なものとしたい

KEEP YOUR NEEDS

確かな信頼と実績
工事完成図書作成

高水準コピー｜最新技術導入のDTP
総合複写・総合印刷

各種納品要領に沿った的確なサポート
電子納品・建設CALS/EL

プランニングからトータルにサポート
企画・デザイン制作

情報処理のエキスパート / 完成図書・デジタル化総合サポート

KEEP YOUR NEEDS
株式会社ケーヨー

〒103-0023 東京都中央区日本橋本町 4-1-6 ☎03-3242-0191 FAX 03-3242-0167
URL：http://www.keyo.co.jp E-mail：info@keyo.co.jp

◆巻頭言 9

手を取り合ってTOTAL-WINの関係を

理事　後藤　眞

2015 年も残すところ 1 か月を切りました。本年も会員の皆様、並びに関係各位には大変お世話になりました事、心より御礼申し上げます。

また、月刊関複も今月で 9 号目ということで、より組合活動の普及が出来た 1 年でありました。斎藤理事長、朝香副理事長、細井副理事長並びに早坂理事、米田理事を筆頭とした皆さまのお力の賜物ではないかと思います。

思い起こせばここ数年の関複は大きな変革が起こりました。複写連より脱退した事、創立以来続いていた支部制度を廃止した事など、決して簡単ではない決断をしてまいりました。こうした内外含めた変革というものは、聞こえがよく思えても、その先のビジョンがなければ一時凌ぎの策にしかなりません。関複では、既に独自の教育カリキュラムやプライバシーポジションの推進といった事業を行ってまいりましたが、今後は次世代経営者を育成するため、より情報共有を深め、各関連企業との連携を密にして頂きたく存じます。関複青年部の今後に大いなる期待を致しております。

我々複写業においてアナログからデジタルへの移行を進めてから、かなりの月日が流れました。時代はペーパレスを推進し、出力物の大幅な減少が起こり、お客様のニーズも大きく変わってまいりました。その中で生き残る企業は、お客様との関係がどれだけ密であり、ニーズを引き出してきた実績があるかが鍵になると思っております。私も今まではお客様に有益な情報を提供する提案型営業を深めることを、社員に常々言い聞かせておりましたが、悪く言えば「既存の技術での上から目線」な営業をしていては、お客様の潜在ニーズを知りえることは出来ないのではないかと考えるようになりました。

複写という言葉が付きますと、どうしてもコピー屋さんというイメージが付くと思います。無論、それは間違いではないのですが、「１社に最低１台はカラー複合機が導入されて久しいこのご時世に、コピーだけでどうやって経営をしているのか？」等と質問を受けたケースもあると聞きました。この点、PODという言葉は未だ世間に浸透しきってはいないのではないかと危惧しております。

複写業と一言にまとめましても、各社ごとにメインの業務が違うわけで、当然強みも弱点も変わってまいります。

弊社も来年で創立109年と言う長寿企業になりますが、社員の高齢化やデザイン部門の弱さなど、恥ずかしながら課題が多々ありますのが現状でございます。故に組合員の皆様との情報共有をより密にし、協力できるところは補い合い、お客様のニーズに幅広く応えて行くことが出来れば、関複の魅力はより大きくなるのではないかと思います。

総会、懇親会、各種勉強会などのイベントで交流を図るのはもちろんの事、この月刊関複やホームページ、各種SNSなどを媒体とし、複写業のみならずボーダレスな活動をして頂きたいと思って止みません。

拙文、最後までご覧頂きましてありがとうございました。皆様の更なるご発展をお祈り申し上げます。よいお年をお過ごし下さい。

関複

平成27年度第７回定例理事会を開く

春日再開発事業に伴う仮事務所移転先が決まる

関東複写センター協同組合（関複、斎藤隆正理事長）は11月12日午後５時から、東京・春日の関複事務局で「平成27年度第７回定例理事会」を開催した。理事11人、監事２人、相談役２人が出席した。

審議に先立って、斎藤理事長は「月刊関複の11月号が11月初めに手元に届きました。４月にスタートして半年で内容も充実し、会員の皆様と情報を共有できることにうれしく思っています。今日は事務所移転先について審議をいただきたい」と開会のあいさつを述べた。

あいさつする斎藤理事長

【確認事項】（承認事項２点）

●各部会の活動

①総務部＝亀田真司部長（平成28年新年会の準備を進めていると報告）

②事業推進部＝柴田昌彦部長、大西茂事務局長（PP新規取得者のための研修とペルセ協同組合のPP取得へ研修支援の他PP維持更新研修も実施。キヤノンコレモール売り上げ実績―など報告）

③広報企画部＝米田和秀部長、早坂淳理事（月刊関複の発行スケジュールを発表。広告掲載依頼文書について報告）

④教育情報部＝平澤健一理事、大西事務局長（リコージャパン企画セミナー実務者向け〈PDF活用・実践セミナー３回〉の募集を始めると報告）

⑤青年部＝井寛明部長（11月５日実施したキヤノンと共同企画セミナーが良い評価と感想を述べ、残り６回の開催にはキヤノン側に各個人で申し込むと報告した。関複会員の参加には補助金を出す案が承認された）

⑥移転準備委員会＝米田和秀委員（春日・後楽園再開発事業による仮事務所移転先が、文京区本郷４―24―５、春日ビル７階に12月25日以降〈移転予定日平成28年１月20日〉と発表し、これを承認した。なお、新ビル完成までの仮入居期間は44カ月を見込んでいる）

理事会風景

企業訪問 ⑨ アルボックス株式会社

明るくオープンなオフィスで小ロット需要の新規開拓を

松原社長

時代の変革に即応することが大事だと、スピード納品を信条にしているアルボックス㈱（東京都中央区築地１ー12ー６築地えとビルB１）の松原丈志社長。大判カラー・モノクロコピー、スキャニング、電子ファイリング、DTP、CADなど、幅広い業務で関東複写センター協組の組合員の外注会社として昔から関わってきた。「縁の下の力持ちになりたいという気持ちから、仕事を引き受けてきました」という松原社長。現在はデジタル印刷を中核に後工程まで業務展開している。経営方針についてお話を伺った。

◆デジタル化で独自の業務を展開

今回取材で伺ったのは、今夏移転してきた本社に近接するビルの１階の新オフィス。ビルの玄関のガラスドアを開けると、目の前にデジタル印刷機を設置したショールーム的な雰囲気の開放的で明るい空間のオフィスが広がる。室内にはカラーデジタル印刷機を配置し、テーブルと椅子もあって、顧客との商談や社内ミーティングも行えるようになっており、同社のおもてなしの心が窺い知れる。

社員の仕事場はパーテーションで区切られていて、玄関から直接見えないように一線を画しているので、仕事に集中しやすいと言えるだろう。松原社長は同社以外にも法人を２社立ち上げて、一般企業あるいは個人ユーザーのニーズにも応えており、需要の拡大を図っている。名刺、挨拶状、案内状の制作・印刷では、封入から、封函、宛名印字、局出しまで一貫体制で取り組み、他社が敬遠したがる業務も請け負っているのが特長である。

◆ノウハウを身に付け提案型にシフトする

「新しい仕事を開拓していかなければ生き残っていくのは難しい時代です。一般企業あるいは個人ユーザーなど、さまざまな顧客を対象にして新しい商品を提案していく必要があると感じています。来訪してもらいやすいように、このオープンな環境の場所に移転しました。一般のお客様はスキャニングやデジタル印刷機を知りませんから、それをアピールし新規開拓していくつもりです」と、BtoBやBtoCのビジネスを拡大していくことを目指している。

「従来の複写業や印刷業のカラーに染まらない新しい感覚で経営していかないと、会社を存続させるのが難しいと思います。同業者ばかりが顧客では提案型は難しいですし、待ちの仕事になってしまいますので、独自色を出していく必要性があります。価格競争に巻き込まれないプライドを持った経営をしていきたい」という松原社長。

また、従来客に対しては「デジタル印刷機はじめDTPや後工程の設備も持っている点をアピールすれば『アルボックスはこういう仕事もできるのか』『それならこの仕事を持って行けばやってくれる』と、なって、エンドユーザーさんに提案していただけると思うのです」。

アルボックスでは、名刺以外でも、コースター、ポスター制作、各種ノベルティ、チラシ・パンフ制作などあらゆる小ロット物の商品・印刷物を手掛けている。「お客様のニーズに応えていけるような体制にするために、ノウハウを身に付けて提案できるように、社員教育もしっかりと行っています」と人材育成にも力を入れている。

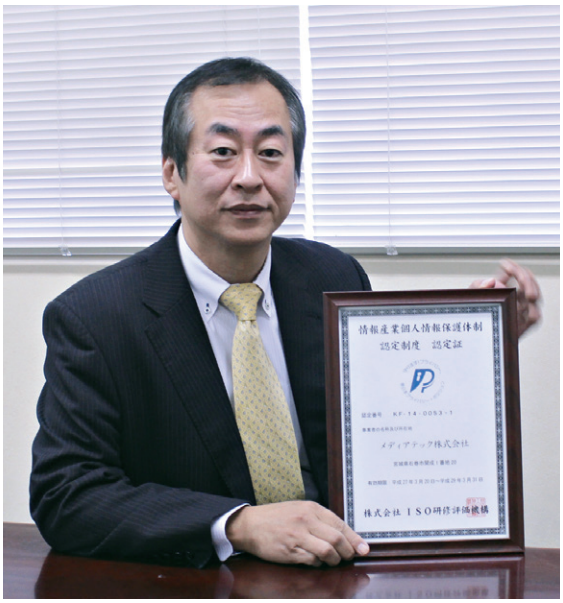
プライバシー・ポジション（PP）マーク制度取得企業紹介

今回は、宮城県石巻市のメディアテック株式会社を紹介します。

会社全体で情報管理に取り組んでいく

地域密着型のソフト開発会社として、石巻市・青森市・東京、そして本年から仙台市と企業活動を続け、平成27年4月で創立28周年になります。近年は、急速に普及しているインターネットをキーワードにWebアプリケーションの開発を積極的に展開していく中で、ITを利用した運用技術にも力を注いでいます。

今回、プライバシー・ポジションマーク取得に向け、自社が保有す個人・企業情報など取扱い方法を洗いだすことから始まり、どのようなリスクが存在するのかを理解し分析し、全社員が改めて情報の取り扱いの重要さを認識させられました。情報が飛び交う今の世の中だからこそ、情報管理を会社組織で今後も取り組んでいかなければと強く実感しています。



メディアテック株式会社
代表取締役　加藤　俊治

関東地区で「PP維持・更新研修会」を実施

関東複写センター協同組合は、関東地区で「PP維持・更新研修会」を株式会社コンサルティング・オフィスの神田幸男氏を講師として招き実施した。

関東地区は組合員29社、組合員外2社の31社中、10月28日（水）14社18人、11月5日（木）15社18人が文京シビックセンターで受講した。当日仕事の都合がつかなかった2社については、個別に訪問し研修を行うこととなった。

本年の研修会は、来年度から導入されるマイナンバー制度、昨年の12月に改正された個人情報ガイドライン、今年の9月3日に成立した個人情報保護法及び番号法など内容が多岐にわたったが、関複では、マイナンバーの研修会を2度行っていたこともあり、午後6時から8時30分まで、例年より多少長めの研修となった。

特に小規模取扱事業者（取り扱う個人情報が5,000人以下の事業者）に対する適用除外規定の廃止にはなったが、PPの認定を受けていれば、改正個人情報保護法に対応できるという講師の説明に、参加者にはPP取得に得心したようだ。

神田氏が講演を行った

キヤノンMJ･S＆Sと青年部がセミナー開く

共同企画で企業の事業後継者育成を目的に

キヤノンマーケティングジャパン（キヤノンMJ）とキヤノンシステムアンドサポート（キヤノンS＆S）は、関東複写センター協組（斎藤隆正理事長）の青年部（井寛明部長）と共同企画したセミナーでは、複写業界が課題としている後継者育成を目的に、11月５日午後３時から東京・有楽町の東京国際フォーラム会議室で、第２回青年部の参加型セミナーを開催した。

参加者は次世代経営者及びその業務に準ずるスタッフを対象とした50歳以下を条件にしているが、今回は50歳以上のオブザーバーも出席した。

講師には、スコラ･コンサルト社の高橋秀紀氏が「『どうしたらもっといい会社を創れるか？』～きっと見つかる！　あなたにとってのいい会社づくりの可能性～」のテーマで講義した。講義では、トヨタカローラ秋田の経営方針である「心のこもったサービス」をキーワードに、営業スタッフ、サービススタッフともに人と人のふれあいを大切にしながら、日々お客様にサービスを提供している実例をビデオで紹介した。

講演会場

講師の高橋氏

その中で高橋氏は、「お客様に愛される存在になれば自身も成長してくる」と、もの（物品）からコト（サービス）への営業の極意を強調し、社員の意識向上が図られると述べた。

セミナー終了後の懇親会は、会場を移し情報交換会を行った。主催者側のキヤノンMJの小巻昭一本部長と関複青年部の井部長がそれぞれのあいさつの中で、セミナー開催の意義を紹介し、これからも後継者育成に役立つ内容で継続して実施していく考えを述べた。

懇親会場

教育カリキュラムについて

未来予測研究所
藤田　友久

今回は、教育カリキュラムについて、述べていきます。

教育カリキュラムは、品質管理ISO9000では義務づけられていますが、零細企業・中小企業等では、しっかりした教育カリキュラムが出来ていないのが実情です。

では、教育カリキュラムは必要なのでしょうか？　なぜ、品質管理の面でしなければならないのでしょうか？　そこには、目標管理が含まれているからなのです。目標管理を行う上で、何故、クレームが発生したのかを把握でき、その対策を考えるには、しっかりした教育カリキュラムが必要になってくるのです。その場しのぎで対処していると、大きな問題になりかねません。

今、問題になっている多くのデータ改ざん事件も、その企業が、その仕事に対して、しっかりとした教育カリキュラムがなされていなかっからこそ起きた事件だと思います。どの企業も誤魔化しても、何とかなるのではないかといった社内風土があったのではないでしょうか。問題が起こってからでは、手遅れであり、社会問題にまでなります。

では、教育カリキュラムは、どのように作成するのでしょうか？　ISO9000番を取得しなければできないわけではありません、どのように教育カリキュラムを組むのかは、企業によって違いがありますが、その企業は進むべき道に何が必要で何を誰に学ばせるかが重要になってくるのです。

ただ、教育カリキュラムを組む上で、必ず、必要なものが業務フローチャートです。業務を行う上で、何が必要なのかを、明確にしなければなりません。その為に、業務フローを文書化することが肝心なのです。文書化ができたなら、それをそのフローにもとづきチェックする機能を持たせなければなりません。チェックがなされなければ、何の効力にもなりません。しっかりしたチェックがあってこそ、機能するのです。

話は少し変わりますが、箱根駅伝の話です。みなさんもご存知のように、前回、箱根駅伝で優勝したのは青山学院大学です。そこで、青山学院大学の原晋監督は何をしたのか？青山学院大学は昔から強いチームではありませんでした。

何故、強くなったのか？優勝の秘策はどこにあるとか？疑問を感じました。そこで、原晋監督は選手に何を教えたのか？　まず、原晋監督は個々に、しっかりとした教育カリキュラムを組み、テーマを設け、目標管理を明確にして、個々が今、何やるべきかを教えたのです。その個々の選手が、その目標に取り込み、チーム一丸となって全力で向かうことが優勝につながることだと信じさせることであり、そして、個々に喜びと感じ、大きなモチベーションを持たせることができたからだと思います。そして、個々が目標を達成し、結果として優勝という名誉がついてきたのです。

やるべきことを個々がしっかりやることが一番重要なことなのです。その為には、企業も一人一人にしっかりした教育カリキュラムを作ることが重要なことであり、企業の発展に大きく寄与していくものではないでしょうか。

では、教育カリキュラムはどのように作成すればいいのでしょうか？　それは、社長が率先してやる仕事なのです。大きな会社では、無理ですが、個々の社員の事を思い、個々に面接をして、個々のテーマを決めさせ、目標を明確にしてあげることです。社員のモチベーションを上げて、業績を上げていくことが、社長の任務なのです。

現在、やっていれば、問題はありませんが、これをやることで大きな成果が出るのではないでしょうか。やるかやらないかは、個々の企業が決めることで、強要するつもりは決してありません。ただ、お勧めしたいだけです。経営者は色々と仕事が忙しく、そんな時間などなかなか取れないと思いますが、会社の為、社員の為に少しでも、時間を割いて、教育カリキュラムの作成に取り組んでみてはいかがしょうか。ご質問があれば、ご相談ください。

10月度「キヤノンiPカレッジin品川」

「マーケティング実践企業への変革」テーマで開く

キヤノンマーケティングジャパン（キヤノンMJ）は10月22日午後１時半から、東京･品川のキヤノンSタワーで、平成27年10月度「キヤノンiPカレッジin品川」を開催した。

今回のテーマは『マーケティング実践企業への変革　～関係性を構築し、新たな売り上げを創出する～』を掲げ、２部形式で行われた。はじめに主催者側のキヤノンプロダクションプリンティングシステムズ（キヤノンPPS）・プロダクション営業本部第二営業部の須賀重之部長があいさつに立ち「皆様方の商業印刷にお役に立てていただけるようこのカレッジも充実した企画内容でこれからも実施していきます」と開催趣旨とキヤノングループへの理解を求めた。

第１部は、パッケージ松浦の松浦陽司社長が『「モノ」を売るな！「体験」を売れ！　～パッケージマーケティングで安売りよ、さらば！～』の演題で講演した。松浦氏はモノだけの競争は結局安売り競争になってしまう、と曲型的な「モノ思考」に陥ると強調し、同じ商品でありながらパッケージのデザインから、目に留まりやすいストリー性のあるコピーなどで商品価値を上げることが大切だと述べ、地方でよく売れた商品パッケージ見本を紹介した。

あいさつする須賀部長

第２部は、プロダクションプリンター「imagePRESS C10000VP／C8000VP」について、キヤノンMJ･プロダクションシステム企画部の伊藤俊文氏が、同POD機の新機能と特徴を紹介した。

「OGBS 2015」に桜井とダイヤミックが出展

オーダーグッズ・ビジネスショー（OGBS）2015が10月２日と３日の２日間、東京･池袋のサンシャインシティ・コンベンションセンター文化会館で開かれた。この展示会は、1981年から継続しており、はんこビジネスとTシャツプリント、オリジナル＆SPグッズなど、業態のボーダレス化とオーダーグッズの拡大に伴った多種多様な加工グッズを会場で実演を行った。今年もシャチハタ、理想科学工業、ミマキエンジニアリングなど91社が出展した。その中では関東複写センター協組協賛会員の桜井とダイヤミックの２社が新商品を展示した。

【出展商品】

桜井＝「MOLD JET STRETCH INK」300%以上伸びるインクでダイレクト印刷･成型用印刷を専用プリンターで高付加価値ある加工製品ができるとして、従来は印刷面が曲がると表面に割れ目が出たが、これらの問題が解消されたと来場者に強調した。

ダイヤミック＝オリジナルデザインテープ作成機「Tape Creator」は、自社専用のオリジナルテープ（粘着）やリボンに加工することにより、満足度の高い付加価値のある梱包テープになることを来場者にアピールした。

桜井のブース

ダイヤミックのブース

複写を考える⑭　（複写業を中心とする　複写の歴史）

細井　大建

凍石（とうせき）製で、印面は、3～4cm の方形で、インダス文字とともに動物などが刻まれています。動物はサイ、象、虎などの動物のほかに、のちのインドの文化にとって重要な動物である牛が刻まれているものが目たちます。

一方で、一角獣など架空の動物が刻まれていたり、「シヴァ神」の祖形と思われる神などが刻まれていることもあります。

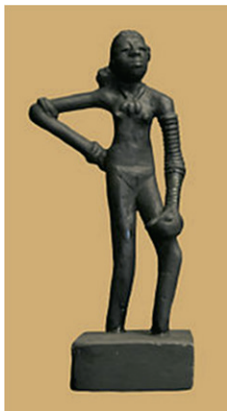


Fig.48 印象

商取引に使用されたと考えられ、メソポタミアの遺跡からも、このような印章の出土例があります。テキストが印章のような短文がほとんどで、ロゼッタ・ストーンのような 2 言語以上の併記がないので、ハラッパー語（英語版）の解読が難航しています。インダス文字は現在でも未解読です。統計的分析などができる長文や、ロゼッタ・ストーンのように多言語併記の物が出土しないことが、研究の大きな障壁になっています。

日本には本当に聖徳太子の時代まで文字はなかったのか

実はあったという説もあります。　ヲシテ（をして）という文字で　ホツマツタヱ、ミカサフミ、フトマニで用いられている　やまとことばを記す日本の文字です。

縄文時代から日本列島で用いられていたと、ヲシテ文献研究者には言われておりますが、土器やほかの遺構から出ていないので、江戸時代に創作された神代文字のひとつであるということになっていますが、どうでしょうか。（ユニコードの登録はない）

Fig.49　ヲシテ文字

世界の言語や文字をまとめようとする試みは

ユニコード

今から 30 年くらい前だったでしょうか、「チャイナとジャパンとコリヤは漢字を使っているのだから　統一しろ」などといっているアメリカ人のおばはんがいる、という話を伝え聞いたのですが、歴史的経過も知らないで無茶苦茶をいうアメリカ人がいるものだと思いましたが、あれが「ユニコード（ＵＣＳ）」の走りだったのです。

（次号につづく）

労働問題Q＆A（7）

株式会社コンサルティング･オフィス
代表取締役 神田幸男
（中小企業診断士）

事例7　無断欠勤にどのように対応する

Q　先日、当社の従業員Gの無断欠勤が3日ほど続き、上司がGの携帯電話に電話をしても繋がらなかったため、自宅に行ったところ、不在でした。

Gの家のポストには、新聞が溜まった状態で、家にも帰っていないようでした。その後、何度か本人の自宅や実家に連絡を試みても、やはり連絡がとれなかったのですが、このような場合、どのように対応すればよいのでしょうか。

A　従業員が家出や蒸発などをして、会社を無断で欠勤している場合には、会社の業務に支障がでるでしょうし、その状態が長期にわたる場合には、何らかの対応が必要となるでしょう。

そのため、多くの会社では、こうした場合に対応するため、「2週間以上無断欠勤が続く場合」という項目を就業規則などの解雇規定に盛り込んでいます。

しかし、従業員が行方不明になり、本人と連絡が取れないことが明らかな場合には、会社が本人の最終住所地に解雇通知を送ったとしても、その解雇通知に効力が発生しないため解雇することはできません。

なぜなら、民法第97条では、意思表示はその通知が相手方に到達したときに、効力が発生するとされているため、社員を解雇する場合でも、解雇の通知が本人に到達しない限り、効力が生じないとされているからです。

では、従業員が行方不明で連絡が取れない場合に、どのように通知すればよいかということですが、この場合には、民法第97条の2に定める公示送達の手続きを取ることによって、解雇の通告が可能となります。

公示送達とは、裁判所の手続きに従い、公示送達の手続きを行えば、意思表示が本人に到達したとみなすというものです。

申し立てを行う場合は、意思表示の相手方（社員）の最終住所地の簡易裁判所に、①会社の登記簿謄本、②社員の住民票、③社員の不在を証明できる書類（例えば、宛先不明で帰ってきた書留や市町村が発行する不在通知など）、④公示送達をする文書（解雇通知書など）――を持参して手続きを行います。

裁判所では、公示送達する文書を、裁判所の掲示場に掲示し、かつ裁判所の掲示場に掲示したことを、官報及び新聞に少なくとも1回掲載することを命ずることになります。

ただし、解雇通知の場合は、通常官報、新聞への掲載に代えて、相手方の住所地の市町村役場の掲示場に掲示する方法がとられます。

そして、最後に官報又は新聞に掲載した日（市町村役場の掲示場の掲示を命じられた日）から2週間が経過した日に、解雇の意思表示が相手に到達したことになります。

したがって、所轄労働基準監督署長から解雇予告除外認定の許可を受けない場合には、解雇予告期間が必要となりますので、掲示場に掲示されてから2週間が経過した日の翌日から30日が経過する日以降を解雇日として設定する必要があります。

また、解雇予告除外認定も受けず、解雇予告期間も設けない場合には、解雇予告通知書の中に、平均賃金の30日分以上の解雇予告手当を支払う用意がある旨の記載をし、解雇の意思表示が到達したとみなされる日以降、いつでも支払いができる状態にしておけば、問題はないでしょう。

もちろん、未払いとなっている賃金や退職金の支払いがある場合も同様の方法で、いつでも支払うことができる状態にしておけばよいでしょう。

特別企画

次代を担うプロダクションプリンター

今年９月に開催された印刷業界最大のイベント「IGAS2015」では、複写業界にとっても関連性のある最新のプロダクションプリンターが、各メーカーから出展された。

オフセット印刷機ほどの生産性や耐久性には及ばないが、高画質化が進み、品質的にはオフセット印刷と遜色のない画質になってきた。何と言っても、オフセット印刷にはない小ロットやOne to One出力に対応した可変印刷が可能なのがメリットである。

メーカー４社の最新鋭のプロダクションプリンターを紹介する。

富士ゼロックス「Xerox iGen5 150 press」
一段と再現性を高めた高画質が特長

「Xerox iGen5 150 press」は、CMYK＋１色の計５色で、色再現性を一段と向上させたカラープロダクションプリンター。深みや奥行、質感などをこれまで以上に実現し、高画質で色再現性を求めるユーザー向けになっている。

コーポレートカラーやロゴタイプの厳密な色も再現可能なため、さまざまなビジネスを支援できるのが特徴だ。１平方インチにより多くの情報を盛り込むことが可能なVCSEL技術を採用。2400×2400dpiの出力解像度を実現している。

画質調整を容易にする自動カラー・メンテナンス・ツールを搭載。また、印刷ムラや筋の発生を事前に検出し。印刷濃度のバラつきを最小限に抑える。364×660㎜の大サイズ用紙に対応。

プリント対象などに応じて、スクリーン線数を自由に選択可能。オブジェクト指向のハーフトーン機能により、同一面にある画像とテキストの再現性を個別に指定･再現できる。210線のスクリーン線数を利用すれば、髪の毛や背景イメージを鮮明に再現しながら、肌も柔らかなトーンでプリントできる。

連続プリント速度＝Ａ４サイズ137ページ／分。標準構成本体サイズ＝幅7300×奥行1930×高さ2440㎜。

リコー「RICOH Pro C9110／C9100」
安定性･用紙対応力･高生産性を提唱

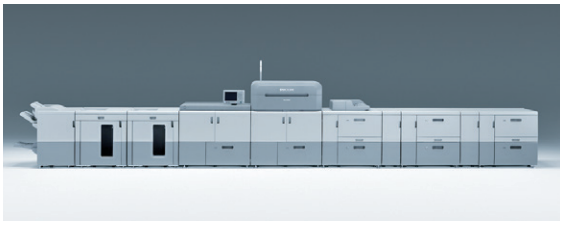
安定高品質と用紙対応力、高生産性を高い次元での提供を提唱したのが、リコーのフラッグシッププロダクションプリンターの「RICOH Pro　C9110／C9100」である。

ジョブ内の紙間で二次転写ベルト上に形成した16階調のカラーパッチを内部のセンサーで測色し、一定周期に自動でキャリブレーションを行なう「オートイメージキャリブレーションシステム」により、１ジョブ多ページの印刷時にも色安定性を高め、バラつきの少ない印刷品質を実現している。

新開発の表裏画像倍率自動補正センサーを搭載。ジョブ内での用紙の幅と長さの変化を検知し、用紙の収縮に合わせて画像倍率補正値を自動で調整する。冊子、本、名刺などの１ジョブ多ページの印刷でも、安定した表裏見当精度を実現。また、最大紙厚400g／㎡までの厚紙の自動両面印刷が可能。これまでは難しかった厚紙を活用したパッケージやディスプレイPOP、ポストカードなど多様な印刷物の制作を、安定した品質で可能にした。

最大用紙幅330.2㎜×700㎜までの大サイズ用紙の自動両面印刷を実現。三つ折りや観音折り

／A４ヨコサイズの二つ折りカタログやブックカバー、バナーなど、多彩なPODでの制作を可能にしている。印刷スピードは用紙を問わずフルカラー／モノクロともに130ページ／分（RICOH Pro C9110の場合）。



コニカミノルタビジネスソリューション「Bizhub PRESS C71hc」コストパフォーマンスに優れた高画質機

コストパフォーマンスに優れた通常のトナーの色域にこだわらない新しいハイクロマトナーを、世界で唯一採用したプロダクションプリンター「Bizuhub PRESS C71hc」。

従来のCMYKの色域に加え、夕焼けの紫、花のピンク、ハイキーなグリーンやブルー等、CMYKプリンターでは難しかった色が再現できる事が大きな特徴。そのため、印刷物でフォトグラファーやデザイナーの意図を、より忠実に再現することができる。用紙位置、紙曲りを高精度なセンサーで検知し、レジスト揺動メカニズムが、正確な位置まで用紙を移動する。従来は難しかった薄紙の見当精度も大幅に向上。また、裏面倍率調整機能も有しており、生産性を落とすことなく表裏見当を確実に合わせられる。

RGBデータの印刷では、色域の広さを生かしたモニター画像に近い色を再現。CMYKデータからの印刷ではオフセット印刷に近い色調を提供する「Standard mode」。また、ハイクロマトナーの広い色域を最大限に活用し、彩度を強調したインパクトのある画質を提供する「Saturation mode」。階調をソフトにし、髪の毛などのシャドー部の再現性を改善した「Soft mode」。以上の３つのモードを内蔵している。

キヤノンマーケティングジャパン「imagePRESS C10000VP／C8000VP」2400dpiの高精細でハイエンド市場を

キヤノンマーケティングジャパンの「imagePRESS C10000VP」はカラーシリーズ最高の毎分100枚、「imagePRESS C8000VP」は毎分80枚の出力速度（いずれもＡ４ヨコ）で、安定した出力を実現しているほか、高画質と高信頼性を兼ね備えたプロダクションプリンター。

プリンターコントローラー（別売）には「imagePRESS Server」および「PRISMAsync」を用意し、用途に合わせてワークフローを構築できるなど、商業印刷や企業内印刷、包装、フォトブック印刷など、ハイエンド市場の多様なニーズに対応している。

32本の赤色マルチレーザーを照射するレーザースキャナーR－VCSELの搭載により、プリント解像度2,400×2,400dpiの高精細な画質を実現し、文字や細線の忠実な再現や、粒状感を抑えた滑らかな表現を可能にした。

さらに、新現像器とCVトナーの採用により、優れた色再現に加え、大量印刷時でも色味変化の少ないプリントを提供。高速な用紙搬送を維持しながら、表裏の印字画像位置を合わせる「高精度レジストレーション機構」を搭載し、印刷時のズレを0.5㎜以下に抑えている。印刷を止めずにリアルタイムで濃度補正を行い、出力することも可能である。

富士ゼロックス

ＤＳＦ全国発表大会開く
印刷関係者の会員64人が参加し、研究成果を発表

あいさつする林田会長

富士ゼロックスのユーザー会である印刷関連企業で組織されたDocument Service Forum（DSF、会長＝林田桂一東京文久堂社長）の「2015年全国発表大会」が11月６日午後２時から、横浜・みなとみらいの同社お客様価値創造センターで開かれた。64人が参加した。

冒頭、林田会長があいさつに立ち、「今回の発表会の内容は相当レベルが上がっており、実践として使えるものが徐々に出ている」と今大会の研究成果の発表を期待していると述べた。

続いてDSF事務局長の大隅和也氏（富士ゼロックスPS営業本部営業統括長）は、DSF会員の2015年度上半期のドキュメントボリューム実績を発表。カラー分野は2014年度上期比120.3%、モノクロ分野は同115%と、それぞれ増加しており、最近にない成長率を示したとし、今後ともDSF会を盛り上げていきたいと述べた。

その後営業戦略研究会（秋山高秀山陽印刷副社長）、Webマーケティング研究会（笹井靖夫共立速記印刷社長）はじめ６部会が１年間の研究成果を、そのほかに志プロジェクトが状況報告を行った。

休憩をはさんで特別講演、富士ゼロックスPS営業本部の麻生修司執行役員本部長のあいさつにつづいて米田和秀DSF副会長（日本工業社社長）が閉会のあいさつを行った。

全国発表大会の模様

全共済「平成27年度加盟団体会議」開催

全国中小企業共済財団（全共済、渡邉信夫理事長）は、11月５日午後３時半から神奈川県・箱根湯本温泉のホテル河鹿荘で、「平成27年度加盟団体会議」を開いた。

主な議題は、①全共済の現況、②平成27年度上半期の業務概況、③創立50周年記念講演・祝賀会、④『With』メンタルヘルスケア―など意見交換会を行った。

特に今期の重要課題はメンタルヘルスケア事業で、2015年12月に施行したストレスチェック義務化法（従業員50人以上の事業所ではストレスチェックが義務化）の新商品「With」は、「改正労働安全衛生法」のポイントであるストレスチェックを軸とするメンタルヘルスケアサービスと、経営者をサポートする見舞金で構成される安心な企業経営のための新しい商品としている。

今後、企業は適切な就業上の措置を講じなければならないし、メンタルヘルス対策は、企業の重要な経営課題となっていると報告があった。

会場風景

『月刊関複』表紙掲載写真ご提供のお願い

企画広報部では当組合機関誌である月間『関複』を今春より正式に発刊致しました。月間『関複』では毎月、表紙の掲載写真を理事の皆様の協力で投稿頂いております。今後は会員同士のコミュニケーションも含め多くの会員皆様からの投稿をお願いしたいと思います。

題　　材：フリー
撮影機材：一眼レフ～スマホ全て可能
※タイトル又は簡単な説明を 30 文字程度付けて下さい
送 付 先：メールにて以下へ送付して下さい
kjun@keyo.co.jp
※写真は横長タイプを推奨します

9 月号
（藤澤由衣子氏　株式会社エース）

10 月号
関複秋の慰安旅行 富岡製糸場

■今月号の掲載写真

滝谷登攀（井 寛明氏　株式会社アイワ）
学生の頃に夢中だった登攀。山頂目指しチャレンジしてました。あれから 20 余年。日々妥協の連続です。

11 月号
草深の森 森の音楽会（大西 茂氏 関東複写センター協同組合）

関東複写センター協同組合の Facebook ページにアクセスして、グループに参加しよう!

▼ パソコンからの登録方法

1. 「Facebook ログイン」を検索するか、http://www.facebook.com/ にアクセスします。
2. 「アカウント登録」画面が表示されたら、「姓」「名」等必要事項を入力してアカウント登録ボタンをクリックします。
3. 「友達を検索」画面に進みますが、後からでも追加できるので、とりあえずスキップしておきます。
4. 以降は「プロフィール情報を入力」→「趣味・関心を選択」画面へと進むので、適宜入力をしたら、「スキップ」もしくは「保存して続行」をクリックします。
5. 「プロフィール写真を設定」に進むので画面の指示に従い自分の写真を設定したら「保存して続行」をクリックします。（とりあえずスキップすることも可能です）
6. 初期の設定は以上で終了ですが、最初に登録したメールアドレスに確認メールが届いています。そのメールの指示にしたがい、リンクをクリックして登録が完了となります。

▼スマートフォンからの登録方法

1. 「Facebook ログイン」を検索するか、http://www.facebook.com/ にアクセスします。
2. ログイン画面が表示されたら、画面下方のこちらからアカウント登録をタップすると「アカウント登録」画面が表示されます。「姓」「名」等必要事項を入力してアカウント登録ボタンをタップします。
3. 「アカウント確認」画面に切り替わったら、先ほど登録したメールアドレスに届いているコード番号を入力して、「送信」をタップします。
4. 氏名の漢字、およびカナの入力画面に進むので、入力して「送信」をタップします。
5. 以降、公式アプリの紹介、友達の検索、プロフィール写真の設定と進むので、適宜実行、もしくはスキップをくり返し登録を完了させます。

※スマートフォン以外の携帯電話からでも http://mfacebook.com にアクセスすることで登録は可能です。詳細は別途お問い合わせください。

Facebook 上で、関東複写センター協同組合を検索

関東複写センター協同組合の Facebook ページにアクセスしたら「グループに参加」をクリック!

関東複写センター協同組合
広報企画部

月刊関複　No.9
2015 年 12 月 発行